

《飯塚市ブロックチェーン推進宣言》

～ブロックチェーン技術を核とした新産業の創出～

日時：令和8年1月13日（火）13:30～15:00

場所：福岡県飯塚市役所

担当：経済部産学振興課

＜飯塚市ブロックチェーンの歩み＞

○目的：最先端のブロックチェーンの情報に触れて学ぶことができる環境を生み出す。

IT技術者をバックアップする環境を整え、ブロックチェーンの情報と技術の集積地になることを目指す。

新産業の創出と新たなビジネスモデルの構築を目指す。

○経緯：理工系二大学と企業の存在

- ・R元年度 BC ストリート構想立ち上げ
- ・R2年度 各種証明書の電子交付に係る実証事業に関する連携協定調印式
福岡県ブロックチェーンフォーラム開催
福岡県ブロックチェーン技術研修会開催
- ・R3年度 飯塚市ブロックチェーン推進宣言
任意団体フクオカブロックチェーンアライアンス(FBA)結成
- ・R4年度 飯塚市産学官産業共創ビジョン策定
所得証明書の電子交付に係る実証事業実施
- ・R5年度 先端情報技術サポート事業開始
- ・R6年度 フクオカブロックチェーンアライアンス 2024(交流イベント)初開催
- ・R7年度 フクオカブロックチェーンアライアンス 2024(交流イベント)継続開催

＜飯塚ブロックチェーンストリート構想＞

○目的：世界中からブロックチェーン技術者やブロックチェーン技術者を目指す若者、ブロックチェーンを使ったサービス開発を目指す人材や企業が集う、ブロックチェーンの聖地を目指す。

○施設：長崎街道沿いの古民家を改装し、IT技術者の拠点施設を整備

<飯塚市ブロックチェーン推進宣言>

- 情報技術に優れた知財が集まる飯塚市の特徴を最大限に活かすことができるブロックチェーン技術を活用し、産学官が連携してまちづくりを推進

<フクオカブロックチェーンアライアンス(FBA)>

- ブロックチェーン推進都市宣言の実現に向け、産学官の有志により構成される任意団体「フクオカチェーンアライアンス」設立
- 産学官連携で取り組むブロックチェーンによるまちづくり&人づくりを推進するチーム

<ブロックチェーンを活用したまちづくり>

○産業振興

- ・理工系大学の立地
- ・情報技術に優れたベンチャー・スタートアップ
- ・既存の情報技術を組み合わせることで新たな価値や用途を創出することに成功
- ・社会実装の例：デジタル証明、DPP、仮想通過、地域通貨

○まちづくり

- ・改ざん耐性:不正・事故抑止、信頼の基盤
- ・分散型台帳：共創 市民の参加・見守り合いが可能な仕組み
- ・トレーサビリティ：行政手続きや情報開示の透明性確保、説明責任
- ・スマートコントラクト：効率性と公平性の両立
- ・安定性・透明性：システム不具合の抑制、誤解を防ぐ情報発信

○共創型エコシステム形成へ

プロジェクトと信頼性・透明性等への価値観→価値観と経験→人材育成、市民認知

<矢板市への展望>

矢板市では、職員・関係者の皆様のご尽力により、パソコンの導入が早く、LINE（「やいこみゅ」）導入も官民連携の取組として日本初、ICT教育も最前線と評価されていることから、予算さえ確保できれば、ブロックチェーン構想も夢の話ではない。行政手続きや情報開示の透明性確保は、まず取り組むべき内容であると感じる。

感じる。

《みやまスマートエネルギー》

～エネルギーとしあわせの見えるまちづくり～

日時：令和8年1月14日（水）13:30～15:00

場所：福岡県みやま市役所

担当：環境政策課 脱炭素社会推進班

<電力会社設立>

○目的：エネルギーの地産地消

○経緯：みやま市の課題 人口減少

- ・2013年 電力全面自由化(閣議決定)
発電事業会社設立 メガソーラー施設設置
- ・2014年 新廃棄物処理施設での発電計画
大規模 HEMS(へムス)情報基盤整備事業への参加
- ・2015年 みやまスマートエネルギー(株)設立 PV 買取開始
- ・2016年 低圧売電開始 さくらテラス開業
- ・2017年 取次店経由での売電開始
- ・2018年 BGとして他新電力のサポート開始
- ・2019年 卒 FIT 電気買取開始

<地域課題解決>

○エネルギーの地産地消

○地域内経済循環：みやまスマートエネルギー（SE）2024年売上高20億円 雇用33名

○脱炭素化への貢献：みやまSEの電力契約プラン「再エネプラン」で市施設の電気の
二酸化炭素排出量ゼロ

○二酸化炭素排出量の推移：2021年に国の目標「2030年46%削減」を上回る48.4%達成

<市民啓発の取組>

○2019年度から市内全小学校5年生の社会科の時間でみやま市の取組を学ぶ。

○副教材「ゼロカーボンブック」を使用。

○将来の世代へ、持続可能な地域社会づくり(故郷への愛着)を拡げていく。

<みやま市の評価>

- 2015 年 グッドデザイン賞 金賞
- 2019 年 グッドライフアワード 環境大臣賞
- 2021 年 ディスカバー農村漁村の宝 選定
- 2025 年 脱炭素チャレンジカップ 審査員特別賞

<現在の政策>

- 体制：プラットフォーム設立 みやまやり明け自給圏

- 行政：再生可能エネルギーの導入・活用

- ・公共施設 PV 可能調査実施
- ・ごみ発電の環境価値活用検討
- ・ごみ発電の系統連系接続検討
- ・メガソーラーの卒 FIT 後検討
- ・EV 公用車の追加導入検討 現在 2 台

- 家庭：補助金

- ・省エネ家電買替え応援キャンペーン(物価高騰対策補助金)
- ・ゼロカーボン推進事業補助金分

<矢板市への展望>

矢板市では、2013 年「環境都市宣言」を行い、2022 年に「2050 年ゼロカーボンシティ」宣言をして「人と自然が調和する 環境にやさしい 持続可能なまち」を目指すとしている。地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、矢板市が実施している事務・事業に関する温室効果ガスの排出量を削減することを目的に、「矢板市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定した。令和 5 年度から令和 13 年度までの 9 年間で温室効果ガス排出量の 50%削減（基準年度（平成 27 年度）比）を目指して取り組んでいる。

みやま市の先進的な施策を参考に、矢板市の施策とその重要性をわかりやすく図解し、幼少期から意識できるよう啓発活動を推進すべきである。

私も一市民として協力するとともに、矢板市の取組を発信していきたい。

《荒尾ウェルビーイングスマートシティ》

～「暮らしたいまち日本一」への挑戦～

日時：令和8年1月15日（木）10:00～11:30

場所：熊本県荒尾市役所

担当：全庁各課

＜まちづくりの目標＞

- 「暮らしたいまち日本一」を目指す。
- 市民の生活を今よりも便利で、快適に、健康で幸せに

＜まちづくりの基本戦略＞

- ①2つの中心拠点に都市機能を集約し、自然体をけん引
- ②スマートシティを推進、全世代型のデジタル社会へ
- ③SDGsを推進、「石炭のまち」から「ゼロカーボンシティ」へ

＜中心拠点に都市機能集約「コンパクト＋ネットワーク」＞

- 都市づくりの基本方針：スマートコンパクトシティあらお 人口減少から人幸増加へ

- ・「健幸」のまちづくり：生活利便性の維持・向上
- ・「賑幸」のまちづくり：地域経済の活性化
- ・「幸共」のまちづくり：行政コストの適正化

○拠点機能強化

- ・第三セクター商業施設「ゆめタウンシティモール」
- ・市立図書館を商業施設内に官民連携で移転整備(県内初、最大規模)

○駅と一体になった新たな拠点づくり 「あらお海陽スマートタウン」

- ・まちづくりのコンセプト：「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」
- ・保健福祉子育て支援施設と道の駅を複合化した「ウェルネス拠点施設」
- ・ウェルネスをテーマに、温浴施設、宿泊施設、アウトドア施設、運動施設などを誘致
- ・経済波及効果シュミレーション：来訪者 年間約 620 万人

経済波及効果 年間約 480 億円

税収効果 年間約 8.5 億円

就業誘発効果 約 6000 人

<スマートシティの推進>

- 2019 年 国土交通省スマートシティモデル事業「重点事業化促進プログラム」
「ウェルネス拠点基本構想」策定
- 2020 年 国土交通省スマートシティモデル事業「先行モデルプロジェクト」選定
- 2023 年 スマートシティ実装化支援事業
あらおスマートシティ推進協議会

<ヘルスケア・データ利活用>

- 目的：健康で長生きできるまちへ
 - ・先進技術やデジタル技術の活用
 - ・市民に健康への気づきを与える
 - ・健康的な生活習慣へと変容を促す
 - ・ウェルビーイングの向上を目指す
- 地方経済・生活環境創生交付金活用
- 住民の健康に関する意識向上
 - ・健診結果予測シュミレーション 無料で利用可能
 - ・健診結果による生活改善
 - ・生活習慣と改善の取組をデジタルで蓄積
 - ・デジタル健康手帳をタッチポイントとしたサービスの統合化
- 危機感を共有して生活習慣改善の意識向上
 - ・将来の病気の発症リスクを予測可能なフォーンズビジュアス検査導入 全国自治体初
 - ・コンシェルジュ(保健師)による 4 生活習慣改善メニュー提案と取組状況確認
 - ・検査への取組により約半数の疾患リスク値が維持・改善

<データ利活用>

- 目的：利用者に対話してニーズを満たすサービスを仲介(検索、実行)
- 行政サービスマッチング
 - ・サービスを標準 ADI で公開・カタログ化
 - ・PAI がカタログさーばからカタログをダウンロードして端末内でマッチング
- 広報マッチング
 - ・PAI が自治体や企業や広告から利用者に会うものを選ぶ
 - ・利用者 5 万人程度までなら専用サーバ不要、アプリだけで運用可能

<モビリティ>

- 目的：快適に移動することができるまちへ
- AI を駆使したオンデマンド型相乗りタクシー「おもやいタクシー」を運行開始 日本初
 - ・市内全域どこでも条項でき、誰でも利用可能
 - ・利用料金は通常のタクシーの半額程度
 - ・EV車使用で電力の地産地消と脱炭素活用

<防災・見守り>

- 目的：安心して暮らすことができるまちへ
- 小中学生所有の教育用タブレット端末の位置情報を活用して登下校の見守り
- 各種届け出のオンライン化

<SDG s 推進>

- 目的：「石炭のまち」から「ゼロカーボンシティ」へ
- ゼロカーボンシティを宣言
- 地域新電力「有明エナジー」による電力の地産地消取組推進
- J クレジットを活用し、公共施設の電力を全て再生可能エネルギーで賄う
「自治体版 RE100」を実現
- 太陽光発電と蓄電池活用
 - ・市販所や災害対策本部などの BCP 対策
 - ・平常時はピークカットに使用し、電気料金を削減するエネルギーマネジメント事業
- あらお海洋スマートタウン全体を停電しない、災害に強い町にすることを目指す

<矢板市への展望>

「人幸増加」「健幸」「賑幸」「幸共」など「ウェルビーイング」を意識した文言に全庁的な真摯な取組が感じられる。「暮らしたいまちづくり」の為にはまず魅力的なキャッチフレーズと市民目線の施策と広報が必須である。知られていないことは無いのと同じ。

また「日本一」「日本初」など人目を惹く文言も有効である。検索され、視察や訪問、研修が増え、視察内容や報告書が SNS 発信される事で良いサイクルの構築に繋がる。

矢板市においても、総合戦略策定の前に「広報やいた日本一！」が達成されたことが大きな追い風になるであろう。荒尾市のように市民ニーズを確実に把握し、既存の先進的な施策を全庁的にまとめて発信する事が、更なる移住定住促進に繋がる。子育て世代の流入の為には、子育て・教育指数が高い矢板市の「子育て日本一」施策と共に「市民の満足度、幸福度」を上げる施策を更にスマートに進化周知させていくことが有効であろう。

《筑前町立太刀洗平和記念館》

令和8年1月14日(水)

場所：福岡県筑前町

＜太刀洗飛行場＞

- 太刀洗飛行場の概要と航空技術 幻の試作機「震電」、「零戦三二型」実物展示
- 太刀洗飛行場と人々の生活

＜太刀洗大空襲と特攻隊＞

- 空襲の様子
- 特攻 「さくら弾機」、「九七式戦闘機」(世界で唯一の現存機)展示
残された言葉と想い

＜特別攻撃隊＞

- 零戦残骸 実物展示
- 特攻隊員の遺品展示

＜追悼の部屋＞

- 語りの部屋・シアター映像 「太刀洗 1945.3.27」上映

＜今後の展望＞

「零戦」は軽量機実現の為に、パイロットの命を軽視した構造となっている。特攻隊員が残した言葉、遺品を目にしながら、日本国憲法の「基本的人権の尊重」「平和主義」が脳裏をよぎった。たくさんの尊い命が犠牲となって、今の私たちは守られている。ドイツでは「過去の歴史による悲劇を忘れない」ために高校入試に必ず、それらを出題するという。戦争の悲劇を知らない人たちが二度と戦争を起こさないように、悪しき史実を包み隠さず伝えていくことと共に、他人の痛みを感じられるよう、一人ひとりを尊い存在として認識させていく教育が必要であると実感した。